

子ども教育 通信

体育 I

教える力が身に付く授業



ルールを守り、
助け合ってゲームが
できるように説明。



ゴールを決めやすい
位置を確認してもらい
ながらのシュート練習。



ゲームでは、みんなが
ボールに触れられているかを
確認しながら見守る。

積み重ねられる運動体験を意識しつつ、
楽しさを伝えられる先生に。

同学年の友達を相手に模擬授業を実施することで、適切な「授業の流れ」「児童への説明の仕方」などを学びます。まず学生自らがどんな授業を行うか「指導案」を作成し、それを私が確認し、実際に行った後、みんなで感想を言い合って振り返ります。重要なのは“楽しむこと”ですが、簡単ではありません。運動に対しての能力や思いは、幼い頃からの積み重ねでできあがります。だから楽しめるポイントもそれぞれです。ひとたび運動が嫌いになれば、健康につながる運動全般を嫌いになってしまう可能性もあります。積み重ねられていく運動体験を意識しながら、子どもの視点に立って、運動の楽しさを伝えていってほしいと思います。



子ども教育学科
出村友寛
准教授



もっと子どもの視点に
立つべきだった。
客観的に自分を
見つめられた機会。

子ども教育学科2年
上田ひより
鯖江高校出身

小学生の頃にボール遊びをして楽しかった思い出があったので、バスケットボールをテーマに選びました。小学校の2年生を想定して行いましたが、今思えば、その発達段階にもっとふさわしいスポーツがあったように感じます。そして、パスやシュート練習の時は、もっと寄り添って丁寧に教えたほうが良かったです。友達からもらった振り返りの意見は、客観的に自分の模擬授業を見つめることにつながりました。



子ども教育 通信

TOPIC!

子ども教育学科4年
山内陽南子
武生東高校出身
●実習先/
エンゼルランド
ふくい

子ども教育学科4年
佐々木詩乃
鯖江高校出身
●実習先/
さばえ子どもの発達
支援センターかがやき

子ども教育学科4年
齋藤倫輝
武生工業高校出身
●実習先/
社会福祉法人吉江学園
(児童養護施設)

保育実習Ⅲ 座談会

幅広いフィールドでの実習が、柔軟性に富んだ応用力を育む。

子ども教育学科の大きな特徴の一つ、多様な現場実習での実践力向上。幅広い教育・保育現場での体験を得た学生は、将来、高い応用力を持って子どもたちに接することが可能となります。
今回は、各施設での体験をしてきた3名の4年生に座談会スタイルで語ってもらいました！

保育実習Ⅲとは？

保育士は、保育所だけでなく様々な種類の児童福祉施設の職員としても働いています。そのため、保育士資格のための実習には保育所以外の児童福祉施設で行うものもあります。子ども教育学科の保育実習Ⅲは、親と一緒に暮らすことができない子どもを養育する児童養護施設、障害のある子どもを支援する児童発達支援センター、地域の子どもたちに遊びと居場所を提供する児童館など、学生自身が希望した施設で10日間以上の実習を行います。

Q. 参加目的を教えてください。

山内: 県内でも大きな児童館であるエンゼルランドへ来館する子どもたちと関わりたくて参加しました。当日は、おもちゃの作り方シートの作成・発表や、クラフト教室の補助・運営、イベントの運営などに携わりました。

佐々木: 私は、発達支援センターで、個人指導及び集団指導それぞれのように子どもと接しているのかを知りたいと思っていました。当日は、幼児の出欠確認や読み聞かせを行う「集まりの時間」担当と、幼児の発達にあわせてお勉強する「個別指導」担当をさせていただきました。集団の活動では、幼児の気分や特徴をなかなか把握できず、気持ちのついていない幼児などへの声掛けが難しかったですね。

齋藤: 児童養護施設に入所している子どもと家族の関係や、やり取りなどを近くで見たくて参加しました。洗濯や清掃、調理、保育などに携わりながら、子どもたちと日常生活を送り、様々なことに触れました。

Q. 印象的だったことや体験できてよかったことは？

齋藤: 3つあります。まず小さい子は自分と親との思い出をたくさん話してくる。そして、グループホームでは高校生が中心となり仲良く生活していたこと。3つ目は、大きな子はみんな面倒見が良かったこと。どれもが、情報だけでは知り得なかったことです。様々なことを実体験した上で、職員として働く時の目標ができました。

山内: 私は課題をたくさん見つけられたのが良かったです。時間配分がうまくいかなかったり、おもちゃ作りの説明などに難しさを覚えたり、など。あと、エンゼルランドは県外からの家族連れが多く、遊びやイベントの話だけでなく、福井のことやどこから来たのかなど世間話ができただけは印象的でした。

佐々木: 現場だからその体験、私もありました。現場では、その都度、相手のペースに合わせてコミュニケーションすることが重要であると学びました。また、私自身が楽しそうに話をしたりすることが、子どもたちの安心感を育み、心を開いてもらうことにつながるのだと気付きました。

児童館や福祉施設の実際の状況や利用している子どもたちのことなど、実習でしか知り得ないことを、着実に学ぶ時間となりました。保育所や幼稚園に加えた幅広い実習経験が、将来、保育者となった時の懐の深さを広げます。

NEWS!

学部・学科を超えた学び

「学びたい」をクロス! 異分野の約60の授業で知的好奇心を進化させる

子ども教育学科

心理学科	消費者の心理学、感情と性格の心理学、社会と集団の心理学、などの科目
コミュニケーション学科	異文化の理解、オーラル・コミュニケーション、会計学、などの科目
健康栄養学科	生物学、食の文化、食品の品質評価、などの科目

各学科が他学科生に開放する専門科目を履修することによって、大学卒業後のキャリアプランに合わせた独自の授業プログラムを組むことができます。